2016.5.1

平成 28 年度奄美群島サンゴ礁保全対策協議会重要サンゴ群集モニタリング調査

徳之島畦海岸礁池における大規模なサンゴの白化現象の発生について（速報）

～平成 28 年 4 月 29 日現在の状況～

興克樹[1,2]・池村茂[2]

[1]奄美海洋生物研究会、[2]鹿児島県自然保護推進員

１．背景

2016 年 4 月 26 日に漁業関係者からの情報提供により徳之島北西部の畦海岸礁池を潜水調査したところ、樹枝状ミドリイシ群落のほぼ全ての群体が白化していることが確認された。奄美大島においては 2016 年 1 月 24 日から 25 日にかけての記録的な寒波により干出したサンゴ群体の一部に部分白化がみられたが、徳之島畦礁池での部分白化の発生は無く、3 月下旬の潜水調査においても白化の発生は確認されていなかった。畦礁池における白化の現況と周辺海域の白化発生の有無を把握する為に緊急調査を実施した。

２．平成 28 年 4 月 29 日現在の畦海岸礁池のサンゴ群集の状況

畦海岸礁池内を調査したところ、優占する樹枝状ミドリイシ科群体のほぼ全てが白化し死滅していた。藻類に覆われている死滅群体もみられた。白化した樹枝状ミドリイシ科のサンゴ群体は、オトメミドリイシ *Acropora puluchra*、トゲスギミドリイシ *Acropora intermedia*、スギノキミドリイシ *Acropola muricata* 等の樹枝状ミドリイシ属、エダコモンサンゴ *montipora digitata*、トゲエダコモンサンゴ *Montipora stellata* 等の樹枝状コモンサンゴ属の群体であった。シコロサンゴ *Pavona decussata*、コノハシコロサンゴ *pavona frondifera* 等のシコロサンゴ属の葉状群体の白化は見られなかった。今回の白化により生サンゴ被度は 70%から 10%程度に減少した。

３．周辺海域の状況

同日に北側の金見海岸礁池と南側の母間海岸において潜水調査を実施した。北側の金見海岸礁池においては、白化の発生はみられなかった。南側の母間海岸においてはごく一部の樹枝状ミドリイシ群落に部分白化がみられたが、白化率は数%程度で死滅はしていなかった。翌日に徳之島南側の伊仙町喜念海岸礁池を陸上目視で観察したが、白化群体は確認できなかった。このことから、今回の白化は、畦海岸礁池内でのみで局所的に発生していた事が明らかとなった。

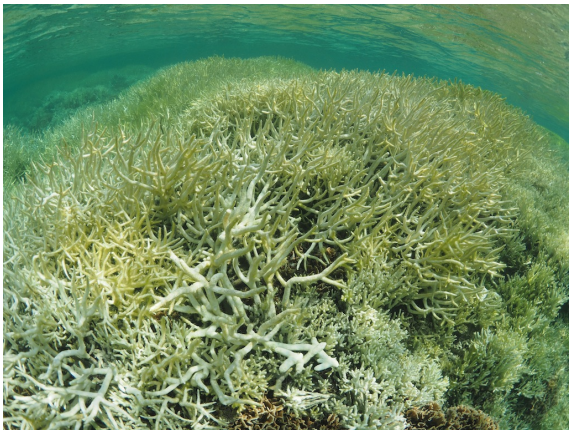
４．考察

今回の畦海岸おけるサンゴの白化は局所的ではあるが、大規模なものであり、約 4.8ha

の範囲にあるほぼ全ての樹枝状ミドリイシ科のサンゴ群体を死滅させている。周辺の礁池と比べ畦海岸の礁池は水路が少なく、やや閉鎖的な環境となっており、長期にわたり、ストレスを受けやすい環境であると思われる。白化を引き起こした原因としては低海水温や塩分濃度の低下等が考えられるが、現時点では不明である。

５．今後の対応

定期的に白化後のサンゴ群集の状況をモニタリングするとともに、2016 年 4 月下旬に行政機関が実施した畦海水浴場の水質検査結果を分析し、原因究明を図る。

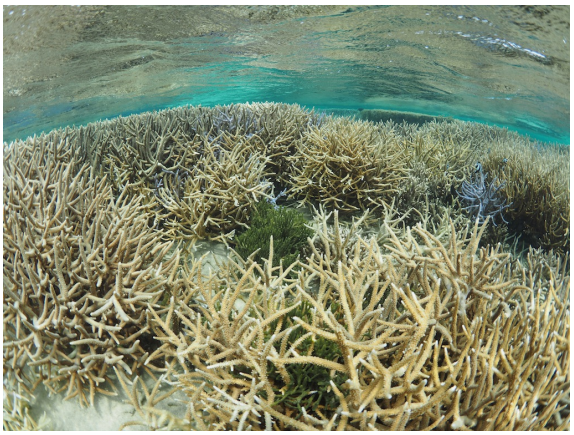


畦海岸礁池（2016 年 4 月 29 日）

畦海岸礁池（2016 年 4 月 29 日）

畦海岸礁池（2016 年 4 月 29 日）

畦海岸礁池（2016 年 4 月 29 日）



母間海岸礁池（2016 年 4 月 29 日）

金見海岸礁池（2016 年 4 月 29 日）